

迎春



牛歩の如く、足を大地に踏み込み
大志をつかもう！

歓迎!! 新入会員のみなさんです

楽しくも・実もある平和運動を築いていきましょう。
各平和委員会(平和の会)からの新入会員の報告をお待ちしています。

- 大和田 保さん(79歳) 北茨城平和の会
- 石森 武男さん(84歳) //
- 大友 章さん(92歳) //
- 松嶋 茂男さん(62歳) ふじしろ平和の会
- 丸山 幸司さん(38歳) はばたき平和の会
- 関 静花さん(24歳) //

平和を守るたたかいの一層の前進を

明けましておめでとうございます。

昨年5月24日、県立青少年会館で08年度県大会が開催されました。07年度の運動の経過を総括し、新年度に向けての運動方針が全代議員の賛成により決定されました。県平和委員会では、平和を取り巻く情勢が一層の厳しさを増している事を認識し、県民のなかに打って出て、県平和委

年末に兵糧米とどく

ワーキングプアーは人ごとではない。県平和委員会事務所で働く2人の若いパートも月7万円前後。自衛手段で昨年夏から昼食の自炊を始めました。小型の電気ガマで事務局長以下3人分を炊き、副食費1人・200円(それでも月12,000円)。そんな状況の中、暮れに旧東村の会員渋谷俊昭さんに話したところ早速玄米30キロが届きました。また、水戸みなみの神長壮行さんからは「お茶漬け・磯じまん」セットをいただきました。一同感謝申し上げ、年を越しました。

県平和委員会代表理事 水野秧一郎

員会・地域平和の会(委員会)の存在を知らせ勢力拡大(仲間増やし)や、学習会の開催、運動の前進に努めることを確認し合いました。「仲間増やし」は、やや遅れているものの、「学習会・集会などの開催」「戦争展」「宣伝行動」などは、各地域の努力で前進がありました。

さて昨年は、アメリカ発の金融不況が日本にも押し寄せ、

労働市場では派遣・契約労働者などが、職場や住まいを奪われ路頭に迷うなど非情な事態が起こり、今年にはいって一層の深刻さを増しています。

その一方で、昨年12月22日外務省は、1945年から76年までの外交文書を公開しました。そのなかで、1965年佐藤栄作首相が就任後の初訪米の際に、ジョンソン政権のマクナマラ国防長官との会談で「(日本が核攻撃を受けた場合は)アメリカが直ちに核による報復を行うことを期待している」と述べ、洋上の米軍艦船からの核兵器による報復攻撃を、具体的に求めていたこと。ジョンソン大統領との会談では米国の「核兵器による日本の防衛」「日本の領海内への核持ち込みと核兵器の使用を容認する(核の傘)」について確証を求めたこと」に対して、大統領から「私が保証する」との言質を得るなど、日本の防衛・アメリカの核使用の容認という密約(核の傘)が、多くの国民の願いに背を向けた横須賀港の原子力空母の母港化になっているのではないのでしょうか。

アメリカは、いま世界中に配備されている「米軍再編」をすすめています。その中心は「日米軍事同盟の強化」です。

1960年の安保改正から、アメリカは、歴代の自民党政権に対して「金も出せ、血も流せ」と迫っています。日本には「憲法9条」があり、世界の大半から支持される宝物をもっていますが、今年は、改憲派の動きも今までになく活発化することが考えられます。

「憲法改悪は許さない」「二度と戦争をさせてはならない」ためにも、反対の声を一段と高くしなければならない重要な年になると思います。

「数は力」「知は力」です。平和を願う多くの人々を仲間に加え入れ、学習や実践活動を積み重ねて、平和勢力の一層の団結で飛躍の年にしましょう。

平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

No.521

月3回発行

2009.1.5

(12/25・1/5合併号)



伊藤真さんのライブ 11.22 憲法9条牛久の会 2周年記念の集い

つくばみらい平和の会 長野 淳子

ベルリンの壁が厳然と存在したドイツで若い日を過ごした伊藤さんは、ドイツ人の友が「壁の向うに友だちをつくと壁が壁でなくなる」と語るのを聞いた・・・というあたりから耳に入ってきた。

田母神論文に関連して、“シビリアンコントロールが危うい”との議論があるが、シビコンは不可能だから9条で軍隊を持たないことにしたのだ・・・。名古屋高裁の「イラク自衛隊派兵は違憲」という判決の中で、自衛隊がイラクで何をやっているか書いてある。“殺しに加担”を立証している・・・。などなど、珠玉のモチーフをお笑いで綴ったというべきか、機関銃の乱射というべきか“聞き逃しては損しそう”“油断できない”と引き込まれてしまった。

20年前、私が茨城に住むようになって間もなくの憲法記念日に、竜ヶ崎での集会に参加した。“こういう集会は少しでも賑やかにしてやらないと”と思ったのである。講師は川村俊夫という方で“憲法は為政者を縛るものだ”と語った。“！！(エッそうだったの)”それで伊藤さんからの“！！”は“憲法は強者に歯止めをかけて弱者を守る”であった。私より10才若い伊藤さんは、自ら強者として生きてきたと振り返り、我々をこの話題へと引き込んだ。そして切り口を変えれば強者と弱者は入れ替わると。

つくばみらい平和の会では半年ほど前、「伊藤真のけんぼう手習い塾」のダウンロードで学習したが、その紙を出してみると、今回のライブに呼応して細かい文字が紙面から立ち上がってくるようであった。伊藤さん、孫悟空のように分身の術で10人くらいになって津々浦々で講演してください！

一週間後の日曜日、日本キリスト教団牛久教会の礼拝では、宮島牧師が説教の中で、9条の会が開かれたことを紹介し、“私たち日本人はイラクでの殺しに加担している”“憲法は法律の親玉なんかではない！”など伊藤さんの講演を引用した。聖書はイザヤ書2章「主は国々の争いを裁き、多くの

民を戒められる。彼等は剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」を読みました。



美和・緒川平和の会で忘年会

美和・緒川平和の会 小室 通夫

昨年12月13日、平和の会恒例の忘年会が行われ、13名が出席されました。今回は会長が茨城農民一揆を記した自費出版の「万民救の旗のもとに」の入賞、事務局長の各種書道展等の入賞を兼ねた忘年会ということで、両名より挨拶方々入賞の経緯等が話されました。また堀江市議会議員からは、いま市民の注目的であるデマンド交通、学校合併、那珂川導水事業等の市議会の様子がつぶさに報告されました。

お酒を飲みながらの話でも、地域活性化、戦争の悲惨さ、ご近所の事など盛会のうちに終了しました。



戦争体験を聞く

平和の集いを開催

石岡平和の会 植田 金雄

12月14日(日)午後1時30分より、上記の集いを開きました。毎年12月8日の太平洋戦争開戦日に合わせて、戦争体験者の話を聞いて、二度と戦争は起こしてはならない、平和憲法9条の大切さを改めて確認する目的で行っています。今年は、土浦市在住の「磯清十郎」さん(85歳)にお出でいただき行いました。

磯さんは、旧岩瀬町に1923年(大正12年)に生まれ、15歳で旧満州(現中国東北部)に渡りました。当時の農村では、長男は跡取りとして、他は自力で立ち立つことが普通であり、あてがあるでもなく行ったとのこと。運良く満州関係者の方に救われて満鉄学校に学び、満州鉄道にて働くことがで

きた。1943年(昭和18年)現地で徴兵検査を受けて、1944年に召集となり、第五国境守備隊、0120部隊に配属となった。この部隊は500名で、ソ連戦車に人間爆弾として体当たり作戦を行い、二日間で全滅状態。運よく助かり山中をさ迷い、戦争に負けたことも知らず、食べられるものは何でも食べて命をつないだ。磯さんは、祖母の「人を殺してはいけない、殺されないで帰ってくるように」の言葉が教えとなり、現地で、日本兵が中国人を殺しても、磯さんは、そのようなことはできなかつたとのこと。現地で奥さんとなった方との出会いのエピソードも話された。当時日本兵を中国当局に差し出せば200円の賞金が掛けられていたので何度も危険に遭遇したが、満鉄での技師としての経験などが生きて重宝がられて命拾いをした。最後に、戦争は勝っても負けても何も残らない。不幸だけが残る。憲法9条をしっかりと守り、次の世代に引き継ぐことの大切さを訴え、できる限り自分のような体験でも聞いてくださる方があれば、お話をさせていただきますと閉められました。

90分間休憩なしでお話をされ、また、その記憶力に感じ入りました。私どもの都合で、お話し途中で切り上げさせていただきました。たいへん残念で申し訳なかったことでした。

私たちも、今後、ますます平和憲法・9条を守り広める活動を精一杯行うことを参加者23名が確認して、現代のおいしいスイトンをいただき終了しました。この集いで会員1名増ができました。うれしい限りです。

学習会のお知らせ

元航空幕僚長田母神発言をめぐって 話し合ってみませんか

と き 1月24日(土) 午後1時～4時

ところ 茨城平和会館内 県平和委員会事務所

テーマ 田母神発言について考える

報告者 藤田稜威雄さん(県平和委員会常任理事)

主催 県平和委員会 学習運動委員会

気軽な学習会を定期的に行っていきたいと考えています。どうぞご参加ください。

